

第 2 回小牧市放課後子ども総合プラン導入検討委員会 報告

1. 日時

令和元年 10 月 16 日（水）午前 10 時から

2. 議題

(1) 名古屋市立名北小学校トワイライトルームの視察について

(2) 課題または考慮すべき要素について

- ① 放課後子ども教室では、活動内容に対して児童毎で好みがあり、全員を一緒に取り組ませることが難しい面もある。
- ② 夏休みの児童クラブでは、工作を行ったり読み聞かせのボランティアをお願いしたり活動内容に少し変化を加えることは行っているが、複数の講師をお願いして普段より大きな活動をしようとする、日程調整や参加児童数の調整が大変だった。
- ③ 児童クラブは 1 年生から 6 年生まで学年が幅広い、内容によっては同一の体験活動を提供することがそぐわないときもある。
- ④ 体験活動の時間帯に児童が体験活動に参加するのか、児童クラブ室に残って例えば宿題に取り組むのか、児童が気軽に選択できるようにしてもよいのではないか。
- ⑤ 市である程度謝礼の予算を確保して、各クラブに配分するのではなく、現場からの相談に応じて執行するような仕組みを検討してもよいのではないか。従事者が全ての準備を行うのではなく、音楽などの鑑賞を外部に依頼して、放課後子ども教室参加児童と児童クラブ参加児童が一緒に参加することから始めていくことも考えられる。
- ⑥ 児童館は様々な講座、工作などを行っているため、連携や情報交換ができるとよい。
- ⑦ 放課後子ども教室で行っている児童によるブースづくりに児童クラブの児童が客として参加したり、体育館の半面を使って遊びをしているところにもう半面は児童クラブの児童が参加したりなど、一緒にできることはあると思う。
- ⑧ 例えば夏休みに学校の図書室が借用できれば、場所の確保のみならず本が好きな児童にとってよい活動場所となる。こども未来部と教育委員会が連携して取り組み、放課後子ども教室と児童クラブの一体化の運営の機運を高めれば、調整もしやすくなるのではないか。

(3) モデル地区の要件について

- ① 検討を円滑に進めるため、各児童クラブの利用児童数、部屋数、従事者数、図面などをまとめたものを提示して欲しい。
- ② 各校の放課後子ども教室について、安全管理指導員がたくさんいるところもあれば、学校地域コーディネーターのみで実施しているところもあるため、モデル地区の選定において考慮すべきではないか。
- ③ モデル校は、2校あれば情報交換ができるうえに、1校のみではそこでの取り組みが他の地区にうまく当てはめられないこともあるのではないか。
- ④ モデル校の決定にあたっては、利用申込方法など事業の内容を今年度概ね明示したうえで検討を続けるべきだと思う。令和2年度から部分的に実施できる内容は試行するとよいと思う。

小牧市放課後子ども総合プラン 実施体制のイメージについて

